



●フグの活性が高いときは仕掛けを下ろすだけでバリバリ釣れる



●カワハギ釣りのようにタタキを入れ、ゼロテンション状態にしてアタリを待つ



●取り込みは海面まで浮いてきたら船へりまでフグを寄せ、竿を立てて抜き上げる



▲釣り場は大貫沖の水深10メートル前後



▲出船前に大澤船長が釣り方をレクチャーしてくれる

# 秋の湾フグ ヨリフグ YORI-FUGU

## 大貫沖でアタリ活発! 今年のヨリは型がいい!

東京湾奥浦安出船

撮影●本誌編集部



●アタリがきたら聞き上げてから合わせを入れてハリ掛かりさせる



●アタリが多くエサの消費量も増えていく



●秋はアタリが多くて楽しい



●小さなアタリを見逃さないことが大切



●手返しよく釣ることが数をのばすコツ



●20センチ級がダブルで掛かると引きも強い



●初挑戦で11尾釣り上げた




●まめに底タチを取り直すし振掛かりしにくい



●当日は午前中まで全員ソ抜けを達成

下のハリによく掛かるときはオモリの上にハリを付ける

フグが沈んで一番下のハリによく掛かるときは、写真のようにオモリの上にハリを付けるのがおすすめ。エサが自然な状態で海底に着くため、フグが食いやすくなり、このハリによく掛かるようになる。



▲枝スの長さは10センチ



●今年は新子がほとんど交じらない



●20〜25センチ級が主体



●カンパチが上がった



●船宿仕掛けは胴つき2〜4本ハリ、幹糸4号、枝ス3号、ハリは丸カイズ13号。オモリ20号

▼エサはアルゼンチンアカエビ

●好調が続く東京湾のシヨウサイフグ。数釣りを楽しもうなら今

▲フグが底から浮いた反応のときは高活性で食い立つ

今年は8月下旬から大貫沖の水深10メートル前後で大きな群れが集まって入れ食いになる。ヨリフグと呼ばれる現象が起こり、9月中旬になっても続いている。

取材した東京湾奥浦安の吉久では、いい日はトップ40〜50尾の釣れ具合で、サイズはヨリフグと呼ぶにはやや大きめ。大澤船長によると例年なら15〜20センチ級主体だが、今年は20〜25センチ級が多いとのこと。

湾フグ釣りといえばカットウ仕掛けが定番だが、東京湾ではこの時期、フグの群れが固まり反応が高く出ることが多く、タナを広く探りやすい胴つき仕掛けが有利となる。なおポイントによってはカットウ仕掛けが禁止の場所もある。船長の指示に従って釣りを楽しんでほしい。

(詳細は56ページ参照)



●ハリ掛かりしたらテンションを緩めずに巻き上げる